

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月28日

協議会名: 上三川町地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金

前回評価

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関東交通株式会社	上三川町デマンド交通	<ul style="list-style-type: none"> 隣接市町で連携した取組みによる利用促進 下野市、壬生町との相互利用を開始し、登録・利用者が拡大した。 利用者のニーズを踏まえた上でのお断り状況の改善 自動予約配車システムを導入し、効率的な配車だけでなく、希望の送迎時刻を案内できない際に代替の送迎時刻を案内できるようにし、お断り件数の減少が期待できる。 乗継ぎが負担とならない路線バスとの接続 自動予約配車システムを使い、デマンド交通と実証運行中の広域連携バスとのワンストップの予約案内を開始した。 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された</p>	<p>B</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった 【未達成項目】 計画: 1日あたり75人分の移動手段を確保する。 ↓ 実績: 1日あたり54.6人</p>	<p>自動予約配車システムの運用開始後の評価検証を行い、最適な運用のあり方を模索する。</p> <p>アンケートにより「デマンド交通を知らない」「見たことがない」という声が依然多いことから、紹介動画の公開や、車両のラッピング、停留所のリニューアル等を行い、認知度向上を図る。</p>

地方運輸局等における
 二次評価結果
 (関東運輸局)

近隣市との相互利用開始や自動予約配車システムを導入するなど、利便性向上の取組は評価出来るが、1日あたり75人分の移動手段を確保するという目標は未達成となった。理由が伸び悩んだ理由の分析結果を踏まえ、近隣市とも連携し今後の施策の検討を進めていただきたい。また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。

- 移動の目的をつくることだが、利用者を増やすための第一歩。当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためのサービスなのか(例: まちの活性化、高齢者の外出促進など)を今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和5（2023）年1月25日

協議会名： 上三川町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金

① 運行事業者	② 事業概要	③ 前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④ 事業実施の適切性	⑤ 目標・効果達成状況	⑥ 事業の今後の改善点（特記事項を含む）
関東交通株式会社	<p>上三川町デマンド交通</p> <p>名称：「かみたん号」</p> <p>営業区域：町内全域 町外9施設</p> <p>運行日：平日</p> <p>運行時間帯： 8時から18時まで</p> <p>運賃：大人町内300円 大人町外450円 小学生 150円 未就学児 無料</p>	<p>近隣市との連携による今後の施策の検討を進められたいとの評価について、1市2町（下野市・上三川町・壬生町）で相互利用の実績等の情報共有を始めた。</p> <p>目的を明確にし、目的達成のための施策を多角的に検討されたことの評価について、交通計画の改訂により明確にした。公共交通空白地の解消及び高齢者や自動車免許を持たない者等の移動手段の確保のため、アンケートを実施したところ、土曜日運行の要望が多いことが分かった。また、十代の若年層には認知度が低いことから、車両ラッピングや学校等へのPRを行い、認知度向上を図った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>目標：15,200人以上利用 実績：15,018人</p> <p>目標：収支率20.0%以上 実績：19.1%</p> <p>分析：コロナの感染拡大が見られている月に利用者数、運行収支率とも低下することから、コロナによる外出控えによるものと考えられる。</p>	<p>1市2町間で更なる相互利用の促進に向けた取組みを検討していく。</p> <p>土曜運行の検討を行う。</p>

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5(2023)年1月25日

協議会名:	上三川町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	上三川町地域公共交通の基本方針: 町民と来訪者が”安心・安全”に往来できる持続可能な公共交通ネットワークのあるまちを実現する 上記を踏まえたライダーシステム維持の目的・必要性: 公共交通空白地の解消及び高齢者や自動車免許を持たない者等の移動手段の確保を図る

令和4年度 上三川町地域公共交通活性化協議会（栃木県上三川町） （地域内ライダーシステム確保維持事業）

地域の公共交通等の現況・課題

本町は、下野市と隣接する行政界西側にJR石橋駅が近接する。また、民間会社の路線バスが5路線存在する。高齢化率は県下で最も低いが(23.57% 栃木県令和3(2021)年度版ふるさとウォッチング)、急速な少子高齢化の進展や人口の減少、マイカーの利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持継続が困難な状況が生じている。

交通計画の基本的な方針／定性的な目標

町民と来訪者が“安心安全”に往来できる持続可能な公共交通ネットワークのあるまちを実現する。

- ・ 「生活の足」として利用しやすい公共交通網を構築する。
- ・ 観光振興と一体となった観光交通の充実を目指す。
- ・ だれでも安心して利用できる公共交通の利用促進を図る。

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況

下記事業の実施により、町デマンド交通の利便性と認知度向上及び広域公共交通との連携を進めた。

- ・ 自動予約配車システムを導入し、本格運用を開始（R3.10～）
- ・ 自動予約システムを用いたインターネット予約を開始（R3.12～）
- ・ 町で推し進めるORIGAMIのまちづくりと協調し、折り紙デザインによる車両のラッピング（R4.7）やご当地停留所（R4.6）を設け、認知度の低い若者へのPRをすすめた。

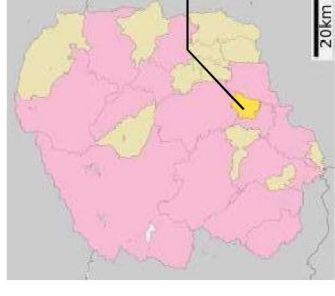
アピールポイント

<今年度事業>

- ・ 自動予約配車システム導入により、おおよその送迎時刻の案内や路線バスとの乗り換え案内ができるようになるとともに、効率的な乗合いの強化による利用者増とお断り件数の減少を果たせた。
- ・ ネット予約が可能となり、若い世代を中心に利用がみられる。全体の約1割がネット予約となっている。
- ・ 車両ラッピング、ご当地停留所を設置し、認知度が向上した。

<継続事業>

- ・ 「デマンド交通かみたん号がお得に利用できます」として、割引券発行事業を実施し、2事業者の協力をいただいている。
- ・ 隣接する下野市及び壬生町のデマンド交通との相互利用を開始し、デマンド交通の乗り継ぎにより移動可能となる範囲が拡大した。



栃木県
上三川町

面積	54.39km ²	
人口 (R4.4.1時点)	31,103人	
	15歳未満	3,990人
	65歳以上	7,609人
高齢化率	24.5%	

交通計画の計画期間

平成30年8月～

令和8年3月

協議会開催状況

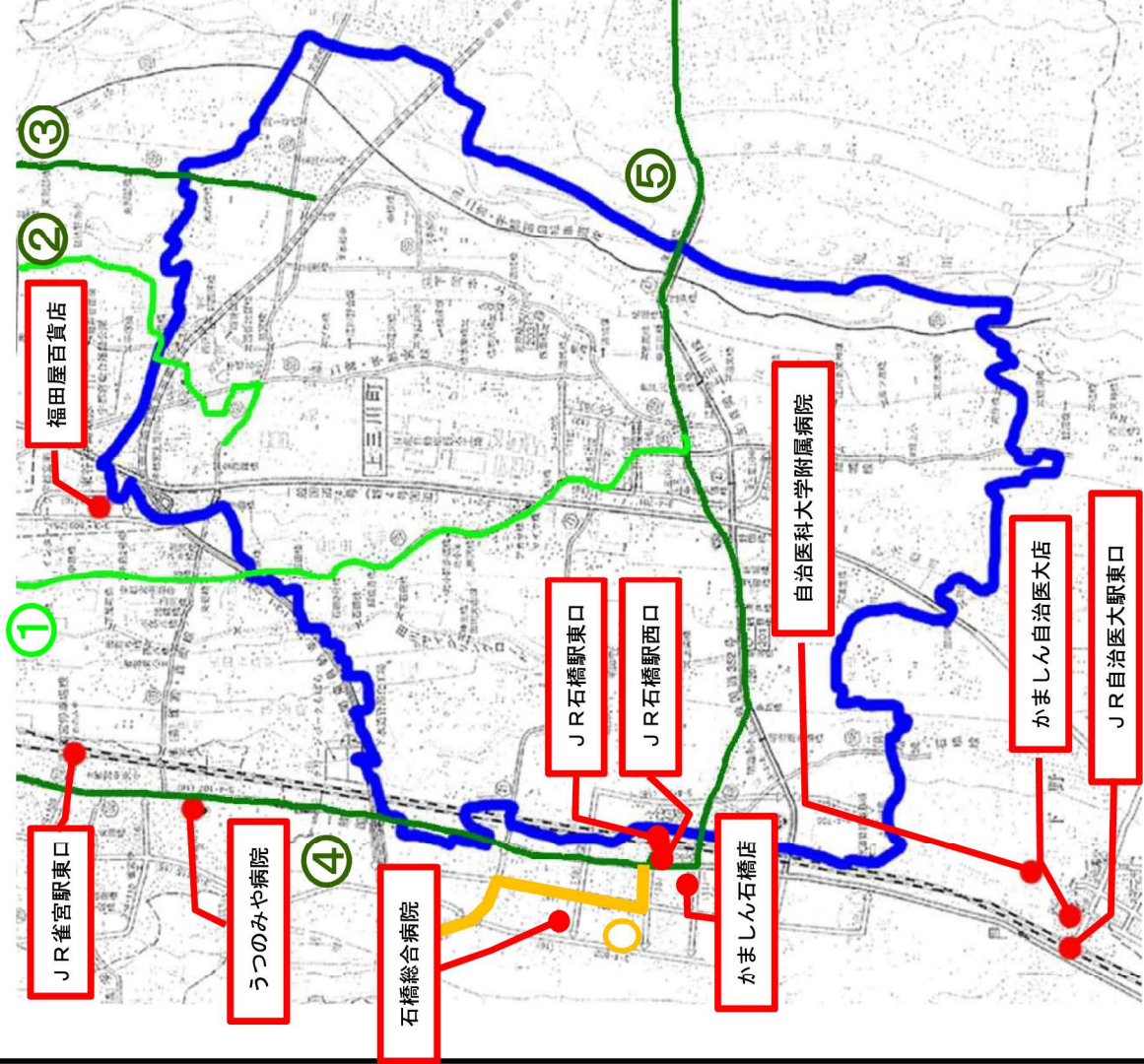
(令和4事業年度に係るもの)

- ・ 第1回(4年6月21日)
デマンド交通について
公共交通網形成計画の評価について
公共交通系形成計画の改訂について
確保維持計画等

・ 第2回(5年1月25日)

公共交通アンケートの結果について
確保維持改善事業評価について等

上三川町デマンド交通運行区域



【凡例】

— 行政区域境（区域内を運行）

系統（国庫補助対象路線）

- ① 関東自動車（駒生営業所～上三川車庫）
- ② 関東自動車（駒生営業所～本郷台西汗）

系統

- ③ 関東自動車（駒生営業所～東汗）
- ④ 関東自動車（JR宇都宮駅～JR石橋駅）
- ⑤ 関東自動車（JR石橋駅～真岡車庫）

参考（町外）

- 関東自動車 ゆうがおバス
（JR石橋駅～獨協医大病院）

区間運行場所（10か所）

- うつのみや病院
- 石橋総合病院
- 自治医科大学付属病院
- 福田屋百貨店（FKDインターパーク店）
- スーパーマーケットかましん石橋店
- スーパーマーケットかましん自治医大店
- JR雀宮駅東口
- JR石橋駅東口
- JR石橋駅西口
- JR自治医大駅東口

【利用実績】

令和3年10月	1,191人	4月	1,257人
11月	1,263人	5月	1,172人
12月	1,246人	6月	1,418人
令和4年1月	1,024人	7月	1,299人
2月	1,087人	8月	1,401人
3月	1,428人	9月	1,232人
		合計	15,018人